



EA21 環境レポート2023

報告期間：2023年8月～2024年7月



2024年11月15日作成

地球環境のために できることのすべてを

1. 会社概要

会社名 株式会社NRS

代表者 代表取締役 中山 卓

設立日 2008年3月

事業の規模 資本金2,000万円

事業年度 8月～翌7月

従業員数 70名(2024年7月現在)

収集運搬量 18,469t(2023年度実績)

処分量 60,641t(2023年度実績)

対象事業場
○本社 〒808-0021 福岡県北九州市若松区響町一丁目79番地1
☎093-752-6100 📠093-752-6111
○ELGセンター 〒811-0102 福岡県糟屋郡新宮町立花口左屋ノ下2191番2
☎092-405-3866 📠092-405-3867
○広島DEPO 〒731-3362 広島県広島市安佐北区安佐町大字久地12422
☎082-554-7960 📠082-554-7961

認証登録範囲 全組織・全活動

ホームページ <https://www.nrs-inc.co.jp>



本社工場



ELGセンター



広島DEPO

2. 事業内容

◆産業廃棄物処分業（中間処理）

建設現場・同業他社・工場等から排出される産業廃棄物を破碎・圧縮・選別を行い、廃棄物を資源に還す取り組みを行っています。

国内外の高性能な機械を揃えるとともに、従業員教育の徹底を行ない、安全・確実な作業と、高いリサイクル率を目指しています。



◆産業廃棄物収集運搬業

I. 広域（関西から沖縄まで）

九州から関西エリアまで広域に収集を行うだけでなく、より多くの資源再生のために、パートナー企業と連携し、独自の「広域再生ネットワーク」を構築しています。

中間処理後の廃棄物を各再生工場へ大型車両で搬入した後は、**搬入後の空車になった車両を活用し、廃棄物をルート回収しながら基地まで戻って来ます。**

パートナー企業と密に連携を図りながら搬入・回収・配車を行なうことで、広域収集でも低コストでのサービスの提供と**CO2の削減**を実現しています。



II. 福岡県近郊

福岡県全域およびその近郊で、大小様々な現場での収集運搬を行なっています。
北九州市・糟屋郡の2つの拠点から、無駄のない独自の配車管理システムを使い、住宅街・市街地でもスピーディかつエコロジーに収集します。



2-2. 産業廃棄物処分業許可証

許可所在地	優良認定	事業区分	許可番号	許可日 有効期限	廃 プラ	紙 く ず	木 く ず	織 維 く ず	ゴ ム く ず	金 属 く ず	ガ ラ ス く ず	石 膏 ボ ー ド に 限 る	ガ ラ ス く ず	鉞 さ い	が れ き 類
北九州市	○	中間処理（破碎） 処理能力（t/8時間）	第07620142405号	2022年 7月1日 2027年 6月30日	○ 30.4	○ 4.2	○ 42.2	○ 27.0	○ 21.9	○ 70.9	○ 106.4		○ 302.4	○ 170.6	
		中間処理（破碎） 廃石膏ボードに限る 処理能力（t/24時 間）								○ 240					
		中間処理（圧縮） 処理能力（t/8時間）			○ 315	○ 378		○ 151							
		中間処理（破碎） 処理能力（t/8時間）									○ 120			○ 176	
		中間処理（破碎） 処理能力（t/8時間）			○ 339	○ 290	○ 533	○ 116	○ 504	○ 1095					
		中間処理（選別） 機械選別施設 処理能力（m ³ /24時 間）			○	○	○	○	○	○	○	967			
福岡県	○	中間処理（選別） 処理能力（t/8時 間）	第04020142405号	2023年 2月3日 2028年 2月2日	○ 152	○ 152	○ 152	○ 152	○ 152	○ 152	○ 152			○ 152	
広島市		中間処理（破碎） 処理能力（t/8時間）	第07320142405号	2020年 8月3日 2025年 8月 4日								○ 81.6			

2-4. 産業廃棄物収集運搬業【積替え保管/広島DEPO】許可詳細

許可先	区分	産業廃棄物の種類	保管面積・保管容量
広島市	収集運搬 (積替・保管を含む)	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず（工作物の新築、改造又は除去に伴って生じたものを除く。）及び陶磁器くず、がれき類（これらのうち廃プリント配線、廃容器包装、鉛製の管又は板、廃ブラウン管、廃石膏ボードを含み、自動車破砕物、鉛蓄電池の電極、石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物及び特別管理型産業廃棄物であるものを除く。）	①面積： 6.0㎡ 容量：4.5㎡ ②面積： 6.0㎡ 容量：4.5㎡ ③面積： 6.0㎡ 容量：4.5㎡ ④面積：12.0㎡ 容量：9.0㎡

2-5. 保有車両一覧

車両名	台数
22 t 脱着式コンテナ車	1
フルトレヘッド	8
フルトレ・トレーラー	6
5 t クラム脱着式コンテナ車	2
セミトレーラー	9
セミトレーラー・ヘッド	9
3 t ユニック車	7
4 t ユニック車	12
3 t 脱着式コンテナ車	1
4 t 脱着式コンテナ車	5
合計	60



2-6. 各事業場処理フロー

◆本社混合廃棄物処理フロー



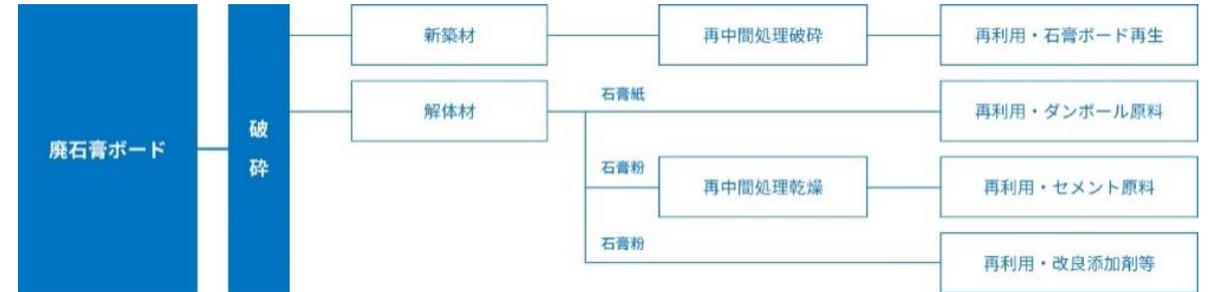
◆ELGセンター混合廃棄物処理フロー



◆本社石膏ボード処理フロー



◆広島DEPO石膏ボード処理フロー



3. 経営方針(基本理念)

基本理念

株式会社NRSは、業を営む上で、適正なる処理は当然ながら、廃棄物処理工程により発生する最終処分量を限りなくゼロへ近づけ、再生可能な資源を取り出すことで循環型社会への貢献と、環境への負荷を少なくし地球環境の保全に努めます。

また、枯渇する資源のため、廃棄されている資源の再生利用や再生エネルギーとしての有効利用を促進し、更なる循環型社会を構築すると共に、地球環境との共生と地域社会へ貢献を目指した事業活動を行います。

4. 環境経営方針・行動指針・環境経営組織図

【環境経営方針】

- 1 エコアクション21を用いた環境経営システムを構築・運営し、持続可能な社会の形成に努めます。
- 2 地域社会と共存・共栄を目指し、事業活動が地域社会の発展に繋がるよう努めます。
- 3 企業活動に伴う環境の負荷を軽減するために、事業活動での3Rの推進、二酸化炭素排出量、水資源、廃棄物の排出量の削減および環境汚染防止の継続的改善に努めます。
- 4 安心安全・働きやすい職場環境を整え、従業員・お客様の安全確保に努めます。

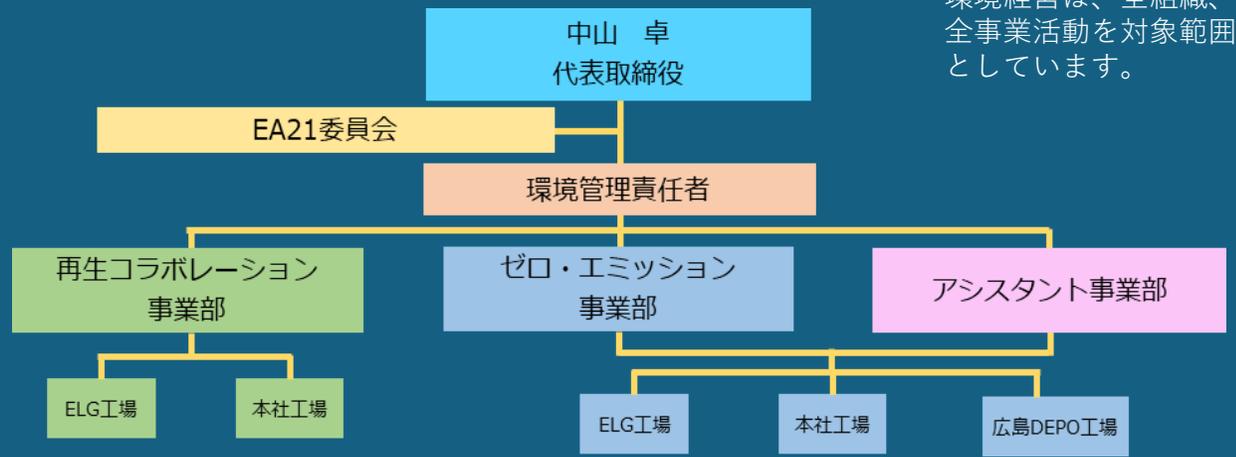
【行動指針】

- 1 当社の事業活動において関連する環境法令・条例等を順守します。
- 2 事業活動に伴い以下の事に取組みます。(現状維持する)
 - ① 受託廃棄物のリサイクルを推進します
 - ② 廃棄物排出の削減(社内から発生する廃棄物)
 - ③ 二酸化炭素発生量の削減(燃費・電気)
 - ④ 水使用量の削減
- 3 環境経営方針を達成するため、社員教育を行い一人一人の意識を高め、環境負荷低減への活動意欲(機械操作・アイドリングストップ・エアコン使用の制限)の向上に努めます。
- 4 使用する資材の維持管理を徹底(フレコン・コンテナ・フレーム・機械等)し、修繕費・消耗品の削減に努めます。(修繕費の内容を明確にする。消耗劣化・故障)
- 5 各事業所の地域活動に積極的に参加し、地域社会への貢献と調和が図れるよう努力します。(清掃活動・地域活動に積極的に参加)

制定日 2013年10月1日
 改定日 2015年04月1日
 2019年04月1日

株式会社 NRS
 代表取締役 中山 卓

環境経営組織図



株式会社NRSにおける環境経営は、全組織、全事業活動を対象範囲としています。

所属	責任者	役割・権限
代表	中山 卓	(代表取締役社長) 全体の統計と環境経営方針の設定 環境経営システムによる目録で見直しをかける
EA21委員会	●総務財務部 アシ・総財部長・副社長 ●ゼロエミッション事業部 本社工場工場長(2名) ELG工場工場長(1名) 広島DEPO工場長(1名) ●再生コラボレーション事業部 ローカルG・課長(2名) ●アシスタント事業部 係長(1名)	(各部署・主任) 最低3カ月に1回相当開催し、環境経営目標の 達成状況及び活動計画の実行状況を審議する
環境管理責任者	●総務財務部 アシ・総財部長・副社長 ●ゼロエミッション事業部 本社工場工場長(1名) ●アシスタント事業部 係長(1名)	下記集計データを集積し、委員会に報告する
アシスタント事業部	アシ・総財部長・副社長 プロセス開発G・主任(1名) インフォメーションG(1名) 総務財務部(1名)	環境経営目標に係るすべてのデータ集計 環境経営レポートの作成
ゼロエミッション事業部	本社工場工場長(2名) 本社工場工場長(1名) ELG工場工場長(1名) 広島DEPO工場長(1名)	排出廃棄物の品質管理 プラント全体の管理
再生コラボレーション事業部	グローバルG・部長(1名)	コンプライアンスチェック 営業車 燃料(ガソリン・軽油)使用料・メンテナンス管理 エコドライブなどの推進
	ローカルG・課長(2名) グローバルG(1名)	収集運搬車両 燃料(ガソリン・軽油)使用料・メンテナンス管理 エコドライブなどの推進

5. 環境経営計画と活動内容

環境法令・条例

- 関連する環境法令・条例の順守(1回/年)
- EA21委員会で環境・関連法の順守状況確認を行う

廃棄物排出量の削減

- 本社工場・ELG工場・広島DEPO
- ・事業系一般廃棄物の排出量を抑制・削減する。
- 紙・ビニール等軟質容器は圧縮して廃棄する
- 紙・段ボールはリサイクルに努める
- ・リサイクル率を向上し、廃棄物排出量を抑制する。
- 再資源化率の向上
- 施設稼働率の向上

総排水量の削減

- 本社工場・ELG工場・広島DEPO
- ・上水の使用量を削減する。
- 必要最低限の使用に努める

事業活動における環境への取組

- 本社工場・ELG工場・広島DEPO
- ・清掃、地域貢献の促進、

二酸化炭素排出量の削減

- 本社工場・ELG工場・広島DEPO
- ・電気使用量の削減
- エアコン設定温度(夏:26度以上・冬22度以下)
- 残業時の不要な照明の消灯
- 長時間パソコンを離れる時、省エネモードにする
- 高効率蛍光灯の導入
- 不要電力消費抑制(不要な機械を止める)
- ・ガソリン・軽油の使用量の削減
- 省エネ運転の励行
- 営業ルート・配車計画の合理化
- 燃費向上に繋がるメンテナンスの実行
- アイドリングストップの手順を決め、実行する。
- ・ガス(LPG)使用量削減
- 節約

修繕費/資材費の削減

- 本社工場・ELG工場・広島DEPO
- ・フレコンのリサイクル
- 開梱方法の検討・修繕方法の検討
- ・機械修繕費の削減
- 日々のメンテナンスの実施・修繕計画の合理化
- ・重機修繕費の削減
- 日々のメンテナンスの実施・修繕計画の合理化
- ・車両修繕費の削減
- 日々のメンテナンスの実施・修繕計画の合理化

二酸化炭素の排出量の削減

	年度	2010年度 (基準年度)	2019年度 (目標)	2020年度 (目標)	2021年度 (目標)	2022年度 (目標)	2023年度 (目標)	2024年度 (目標)	2025年度 (目標)
本社工場	CO2排出量 (kg-CO2/処理量)	20.7	18.01 (kg-CO2/t)	17.91 (kg-CO2/t)	17.80 (kg-CO2/t)	17.70 (kg-CO2/t)	17.60 (kg-CO2/t)	17.50 (kg-CO2/t)	17.40 (kg-CO2/t)
	前年度比の目標値		13%以下	13.5%以下	14%以下	14.5%以下	15%以下	15.5%以下	16%以下
ELG工場	CO2排出量 (kg-CO2/処理量)	5.00	5.00 (kg-CO2/t)						
	前年度比の目標値		現状維持						
広島DEPO	CO2排出量 (kg-CO2/処理量)	5.00	-	-	5.00 (kg-CO2/t)	5.00 (kg-CO2/t)	5.00 (kg-CO2/t)	5.00 (kg-CO2/t)	5.00 (kg-CO2/t)
	前年度比の目標値		-	-	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持

電力使用量

	年度	2010年度 (基準年度)	2019年度 (目標)	2020年度 (目標)	2021年度 (目標)	2022年度 (目標)	2023年度 (目標)	2024年度 (目標)	2025年度 (目標)
本社工場	電力量 (kWh/処理量)	9.2	8.00 (kWh/t)	7.96 (kWh/t)	7.91 (kWh/t)	7.87 (kWh/t)	7.82 (kWh/t)	7.77 (kWh/t)	7.72 (kWh/t)
	前年度比の目標値		13%以下	13.5%以下	14%以下	14.5%以下	15%以下	15.5%以下	16%以下
ELG工場	電力量 (kWh/処理量)	6.1	5.31 (kWh/t)	5.28 (kWh/t)	5.25 (kWh/t)	26.00 (kWh/t)	26.00 (kWh/t)	26.00 (kWh/t)	26.00 (kWh/t)
	前年度比の目標値		13%以下	13.5%以下	14%以下	目標値見直し	現状維持	現状維持	現状維持
広島DEPO	電力量 (kWh/処理量)	6.1	-	-	5.25 (kWh/t)	26.00 (kWh/t)	26.00 (kWh/t)	26.00 (kWh/t)	26.00 (kWh/t)
	前年度比の目標値		-	-	14%以下	目標値見直し	現状維持	現状維持	現状維持

ガソリン使用量の削減

	年度	2010年度 (基準年度)	2019年度 (目標)	2020年度 (目標)	2021年度 (目標)	2022年度 (目標)	2023年度 (目標)	2024年度 (目標)	2025年度 (目標)
全事業場	ガソリン使用量 (平均燃費)	13.5	15.26 (km/ℓ)	15.32 (km/ℓ)	15.39 (km/ℓ)	15.46 (km/ℓ)	15.53 (km/ℓ)	15.59 (km/ℓ)	15.66 (km/ℓ)
	前年度比の目標値		13%以上	13.5%以上	14.0%以上	14.5%以上	15.0%以上	15.5%以上	16.0%以上

※二酸化炭素発生量の算出は、ガイドライン2017年版にて、単位発熱量を組み込まないため2019年度に目標の見直しを行った。

※ 電力の二酸化炭素排出量換算値：0.462kg-CO₂/kWh（九州電力）/0.385kg-CO₂/kWh（北九州パワー）

※ 電力の二酸化炭素排出量換算値：0.536kg-CO₂/kWh（中国電力）

ガソリン使用量の削減

	年度	2010年度 (基準年度)	2019年度 (目標)	2020年度 (目標)	2021年度 (目標)	2022年度 (目標)	2023年度 (目標)	2024年度 (目標)	2025年度 (目標)
全事業場	ガソリン使用量 (平均燃費)	13.5	15.26 (km/ℓ)	15.32 (km/ℓ)	15.39 (km/ℓ)	15.46 (km/ℓ)	15.53 (km/ℓ)	15.59 (km/ℓ)	15.66 (km/ℓ)
	前年度比の目標値		13%以上	13.5%以上	14.0%以上	14.5%以上	15.0%以上	15.5%以上	16.0%以上
ELG工場	ガソリン使用量 (平均燃費)	12.9	14.58 (km/ℓ)	14.64 (km/ℓ)	14.71 (km/ℓ)	14.77 (km/ℓ)	14.84 (km/ℓ)	14.90 (km/ℓ)	14.95 (km/ℓ)
	前年度比の目標値		13%以上	13.5%以上	14.0%以上	14.5%以上	15.0%以上	15.5%以上	16.0%以上
広島DEPO	ガソリン使用量 (平均燃費)	12.9	-	-	14.71 (km/ℓ)	14.77 (km/ℓ)	14.84 (km/ℓ)	14.90 (km/ℓ)	14.95 (km/ℓ)
	前年度比の目標値		-	-	14.0%以上	14.5%以上	15.0%以上	15.5%以上	16.0%以上

軽油使用量			2010年度 (基準年度)	2019年度 (目標)	2020年度 (目標)	2021年度 (目標)	2022年度 (目標)	2023年度 (目標)	2024年度 (目標)	2025年度 (目標)
本社工場	運搬車両 (14台)	平均燃費 (km/ℓ)	1.46 (km/ℓ)	1.61 (km/ℓ)	1.78 (km/ℓ)	1.98 (km/ℓ)	2.20 (km/ℓ)	2.47 (km/ℓ)	2.78 (km/ℓ)	3.14 (km/ℓ)
				10%以上	10.5%以上	11%以上	11.5%以上	12%以上	12.5%以上	13%以上
ELG工場	運搬車両 (26台)	平均燃費 (km/ℓ)	0.98 (km/ℓ)	1.08 (km/ℓ)	1.20 (km/ℓ)	1.33 (km/ℓ)	1.48 (km/ℓ)	1.66 (km/ℓ)	1.86 (km/ℓ)	2.11 (km/ℓ)
				10%以上	10.5%以上	11%以上	11.5%以上	12%以上	12.5%以上	13%以上
広島DEPO	運搬車両 (3台)	平均燃費 (km/ℓ)	0.82 (km/ℓ)	-	-	0.82 (km/ℓ)	1.24 (km/ℓ)	1.39 (km/ℓ)	1.56 (km/ℓ)	1.76 (km/ℓ)
				-	-	基準年度	11.5%以上	12%以上	12.5%以上	13%以上
本社工場	重機・リフト	平均燃費 (km/ℓ)	2.57 (km/ℓ)	2.24 (km/ℓ)	2.22 (km/ℓ)	2.21 (km/ℓ)	2.20 (km/ℓ)	2.18 (km/ℓ)	2.17 (km/ℓ)	2.16 (km/ℓ)
				13%以下	13.5%以下	14%以下	14.5%以下	15%以下	15.5%以下	16%以下
ELG工場	重機・リフト	平均燃費 (km/ℓ)	2.30 (km/ℓ)	2.00 (km/ℓ)	1.99 (km/ℓ)	1.98 (km/ℓ)	1.97 (km/ℓ)	1.96 (km/ℓ)	1.94 (km/ℓ)	1.93 (km/ℓ)
				13%以下	13.5%以下	14%以下	14.5%以下	15%以下	15.5%以下	16%以下
広島DEPO	重機・リフト	平均燃費 (km/ℓ)	2.30 (km/ℓ)	-	-	1.98 (km/ℓ)	1.97 (km/ℓ)	1.96 (km/ℓ)	1.94 (km/ℓ)	1.93 (km/ℓ)
				-	-	14%以下	14.5%以下	15%以下	15.5%以下	16%以下

ガス使用量 (LPG)

	年度	2010年度 (基準年度)	2019年度 (目標)	2020年度 (目標)	2021年度 (目標)	2022年度 (目標)	2023年度 (目標)	2024年度 (目標)	2025年度 (目標)
本社工場	ガス使用量 (kg/月)	2.42 (kg)	2.11 (kg)	2.09 (kg)	2.08 (kg)	2.07 (kg)	2.06 (kg)	2.04 (kg)	2.03 (kg)
	前年度比の目標値		13%以下	13.5%以下	14%以下	14.5%以下	15%以下	15.5%以下	16%以下
広島DEPO	ガス使用量 (kg/月)	2.24 (kg)	-	-	2.08 (kg)	2.07 (kg)	2.06 (kg)	2.04 (kg)	2.03 (kg)
	前年度比の目標値		-	-	14%以下	14.5%以下	15%以下	15.5%以下	16%以下

※ELGについてはLPGの使用なし。

総排水量 (水使用量)

	年度	2010年度 (基準年度)	2019年度 (目標)	2020年度 (目標)	2021年度 (目標)	2022年度 (目標)	2023年度 (目標)	2024年度 (目標)	2025年度 (目標)
本社工場	水使用量 (m ³ /処理量)	0.1 (m ³ /t)							
	前年度比の目標値		基準年度	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
ELG工場	水使用量 (m ³ /処理量)	0.1 (m ³ /t)							
	前年度比の目標値		基準年度	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
広島DEPO	水使用量 (m ³ /処理量)	0.1 (m ³ /t)							
	前年度比の目標値		基準年度	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持

※総排水量 (水使用量) については、周辺地域や環境への影響を鑑み散水等必要不可欠であり、必要最低限の使用を心がけ現状維持とする。

6. 環境経営活動の取組結果の評価及び次年度の取組内容(2023年度)

事業場	目標項目	単位	基準年度	目標値	実績	評価	3年間の目標		
				2023年			2024年	2025年	2026年
全事業場	廃棄物のリサイクル ○リサイクル率	%	2010年度実績 【74.5】	13%向上 84.2	86.7	○	14%向上 84.9	15%向上 86.4	15%向上 86.4
本社工場	自社発生一般廃棄物 ○茶房ゴミ	(t/人)	2019年度実績 【0.05】	現状維持 0.05	0.04	○	現状維持 0.05	現状維持 0.05	現状維持 0.05
ELG工場		(t/人)	2019年度実績 【0.05】	現状維持 0.05	0.03	○	現状維持 0.05	現状維持 0.05	現状維持 0.05
広島DEPO		(t/人)	2019年度実績 【0.05】	現状維持 0.05	0.05	○	現状維持 0.05	現状維持 0.05	現状維持 0.05
本社工場	自社発生一般廃棄物 ○紙・段ボール	%	2019年度実績 【100】	100	100	○	100	100	100
ELG工場		%	2019年度実績 【100】	100	100	○	100	100	100
広島DEPO		%	2019年度実績 【100】	100	100	○	100	100	100
本社工場	二酸化炭素の排出量の削減 kg-CO2/処理量	kg-CO2/t	2010年度実績 【20.7】	17.60	14.52	○	17.60	17.50	17.40
ELG工場		kg-CO2/t	2022年度実績 【16.68】	5.0	2.11	○	現状維持 5.0	現状維持 5.0	現状維持 5.0
広島DEPO		kg-CO2/t	2022年度実績 【12.10】	5.0	8.52	×	現状維持 5.0	現状維持 5.0	基準値見直し

●ELGは選別する廃棄物の種類が変化したことにより、主要設備の稼働低下で使用電力が低減したことから、CO2削減に至る。

●広島DEPOは本格稼働して2年弱であることから、今後数年経過を観察し、2026年に基準値の見直しを実施予定。

★2023年度 NRS全体でのCO2排出量：2,129,931/kg-CO2

※ 電力の二酸化炭素排出量換算値：0.462kg-CO2/ kWh（九州電力）/0.385kg-CO2/ kWh（北九州パワー）/0.536kg-CO2/ kWh（中国電力）

事業場	目標項目	単位	基準年度	目標値	実績	評価	3年間の目標		
				2023年			2024年	2025年	2026年
本社工場	電力量 (kWh/処理量)	k W h / t	2010年度実績 【9.2】	17.90	33.7	× 基準値見直し	2023年度基準 再設定		
ELG工場	電力量 (kWh/処理量)	k W h / t	2010年度実績 【6.1】	26.00	4.60	× 基準値見直し	2021年度変更 現状維持	現状維持	現状維持
広島DEPO	電力量 (kWh/処理量)	k W h / t	2010年度実績 【6.1】	26.00	15.90	× 基準値見直し	2021年度変更 現状維持	現状維持	現状維持
全事業場	ガソリン使用量 (平均燃費)	km / ℓ	2010年度実績 【12.9】	15.53	17.6	○	15.56	15.66	15.72
本社工場	軽油使用量 (収集運搬車両：14台)	km / ℓ	2010年度実績 本社車両平均値 【1.46】	2.47	2.5	○	2.78	3.14	3.56
ELG工場	軽油使用量 (収集運搬車両：26台)	km / ℓ	2010年度実績 ELG車両平均値 【0.98】	1.66	3.3	○	1.86	2.11	2.39
広島DEPO	軽油使用量 (収集運搬車両：3台)	km / ℓ	2021年度実績 広島車両平均値 【0.82】	1.39	2.6	○	1.56	1.76	2.00
本社工場	軽油使用量 (重機・リフト)	ℓ / t	2010年度実績 【2.57】	2.18	5.3	×	2023年度基準 再設定		
ELG工場	軽油使用量 (重機・リフト)	ℓ / t	2010年度実績 【2.30】	1.96	2.5	×	2023年度基準 再設定		
広島DEPO	軽油使用量 (重機・リフト)	ℓ / t	2010年度実績 【2.30】	1.96	6.8	×	2023年度基準 再設定		
本社	ガス使用量 (kg/月)	kg	2010年度実績 【2.42】	2.06	0.0	○	2.04	2.03	2.02
広島DEPO	ガス使用量 (kg/月)	kg	2021年度実績 【1.4】	2.06	2.0	○	2.04	2.03	2.02

事業場	目標項目	単位	基準年度	目標値	実績	評価	3年間の目標		
				2023年			2024年	2025年	2026年
本社工場	総排水量	m³/t	2019年度実績【0.10】	0.10	0.184	○	現状維持	現状維持	現状維持
ELG工場	総排水量	m³/t	2010年度実績【2.47】	0.10	0.018	○	現状維持	現状維持	現状維持
広島DEPO	総排水量	m³/t	2010年度実績【2.47】	0.10	0.015	○	現状維持	現状維持	現状維持
本社工場	修繕費（工場部門機械）	金額	2010年度実績【2】	1.6	1.0	○	1.5	1.4	1.4
ELG工場	修繕費（工場部門機械）	金額	2010年度実績【2】	1.6	2.0	×	1.5	1.4	1.4
広島DEPO	修繕費（工場部門機械）	金額	2010年度実績【2】	1.6	15	×	1.5	1.4	1.4
本社工場	修繕費（工場部門運搬車両）	金額	2010年度実績【2】	1.6	3.1	×	1.5	1.4	1.4
ELG工場	修繕費（工場部門運搬車両）	金額	2010年度実績【2】	1.6	1.8	×	1.5	1.4	1.4
広島DEPO	修繕費（工場部門運搬車両）	金額	2010年度実績【2】	1.6	0.8	○	1.5	1.4	1.4
本社工場	修繕費（運搬部門運搬車両）	金額	2010年度実績【2】	1.6	5.5	×	1.5	1.4	1.4
ELG工場	修繕費（運搬部門運搬車両）	金額	2010年度実績【2】	1.6	0.3	○	1.5	1.4	1.4
本社工場	修繕費（工場部門重機）	金額	2010年度実績【2】	1.6	2.7	×	1.5	1.4	1.4
ELG工場	修繕費（工場部門重機）	金額	2010年度実績【2】	1.6	5.2	×	1.5	1.4	1.4
広島DEPO	修繕費（工場部門重機）	金額	2010年度実績【2】	1.6	2.3	×	1.5	1.4	1.4

次年度の取組内容

- 環境経営計画は、5 環境経営計画に基づき取組みを実施する。
- 環境経営目標は、5-2の中期環境経営目標を継続して活動を行う。

7. 環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法規の遵守確認を行った結果、法規違反はありませんでした。

また、関係当局よりの違反の指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありません。

適応される主な法規制	本社工場	ELG工場	広島DEPO
廃棄物処理法	○	○	○
騒音	○	○	○
振動	○	○	○
フロン排出抑制法	○	○	○
浄化槽法		○	

8. 代表者による全体の評価と見直し結果・指示

今年度の活動の結果

廃棄物の搬入量はほぼ平年並みで処理量は僅かに減少した。

車両燃費に関しては、デジタコを用いて運行管理の徹底を行っており、目標とする燃費に到達しつつある。今後も業務の多様化・作業の複雑化が燃費の低下に繋がらないよう、継続する。

リサイクル率に関しては、年々向上しており、良い結果となった。

製造メーカー並びにセメントメーカーとの連携強化により、マテリアルリサイクルが推進されたことが要因である。

今後、混合廃棄物破砕機並びに石膏ボード破砕機の入替等を計画しており、再資源化をさらに加速させていく。

今後の活動内容として、環境経営に直結したEA21の運用・SDGsの実施を目指し、効率的な処理並びにコスト削減を柱とした目標設定を行う。2024年問題・カーボンニュートラルに向け、省人化・CO2削減に注力するとともに、省エネルギー型の機器の選定等により更に強固な経営基盤を作り上げる。

今後も廃棄物の取扱量が増加すると見込まれるため、電気・燃料費のデータ集積・コスト管理を進め、混合廃棄物のリサイクル率向上に勤める。

また、地域社会と共存・共栄することを前提とした、環境活動・事業活動を継続する。